

○解散の選択は、3月に延期？

予算委員会が本格的な論議に入ってきました。予算そのものの論議は、予算委員会。今、話題になっている道路特定財源など租特と言われる予算に付随する税金の関連法案は、私が筆頭理事をしている財務金融委員会に付託をされます。

今年から参議院が野党の多数で構成されていますから、当然、これまでのような審議では予算も法案も通らないこととなります。このことを踏まえて私は、二つのことを提案しました。租特など予算の関連法案の出し方を、これまでのように100本以上のものを一括して賛成か反対かと問うやり方では実質的な審議ができない。事前に私たちが賛成できるもの(与野党の合意が形成されるもの)とそうでないものを分けて提出をすべきだ。また、租税特別措置の一つ一つが元の税率に付している特別の減税や増税措置に、どのような効果があるのか、現状では情報の開示がないため判断がつかないから、政策評価を事前に各省から提出をすべきだと、主張してきました。

結果は、まったく残念なことになっています。与党は、全ての法案を一括、問答無用で強硬採決という従来のシナリオで委員会がスタートしてしまいました。さらに、ブリッジ法案の提出という奇策で、参議院を無力化してしまう手段に出たのです。これを与党単独で採決してしまおうとしたから、普段は、おとなしくて紳士的だと言われている私も、すっかり頭に来て、委員長解任動議を出し、議場は大混乱になりました。

最終的には、玉虫色の調停案で議長がケンカを治めたことになりましたが、実際は、勝負が3月末日に持ち越されただけのことです。衆議院の多数2/3以上の力づくでの再議決となれば、道路特定財源は与党案のまま10年間延長されることになり、その場合、衆議院の解散、5月の総選挙の可能性もあります。総理が解散を避けて、7月の洞爺湖サミット後だと考えれば、民主党の案を丸呑みに近い形で決着がつくかもしれません。この場合、道路特定財源は一般財源化されることとなります。この先、どうなるのか、やってみなければわかりません。

○鈴鹿に特別支援学校設置

三重県の教育委員会から朗報が届いています。障害を持つ子どもたちのための特別支援学校を、鈴鹿市に設置することが、正式に決定したということです。これで、2時間以上バスにゆられて隣の四日市や津に通学している子どもたちが救われます。小中学校は、杉の子特別支援学校に、高等部は、石薬師高校に設置されることとなります。

地域の悲願を市の教育委員会や県会議員がしっかりと受け止めて、県教委でいい議論をしてもらったと喜んでいきます。親御さんたちの努力が報われました。

○日銀総裁人事の季節

アメリカのサブプライムローンの破綻で、世界の株式市場が混乱しています。この先は、日本のバブル崩壊と同じようなことがアメリカで進んでいくのだろうと言われていきます。

経済の専門家も楽観論と悲観論にはっきり分かれています。しかし、皆の話の共通項は、アメリカ経済がここ何年かにわたって、不況に見舞われ低迷が続くであろうということ。その意味で、日本の輸出が落ちるが、中国やインドでその分をカバーできるとしていた話も、そんなに当てにならないこと。だから、国内の経済政策では、内需を拡大することが必要だと言っています。そのための国家予算でないといけません。

日本銀行の総裁人事が、この時期、とても大事になってきます。政府から提出される案に、私の委員会で、まず、賛否が諮られます。私は、こんな時代であるだけに、金融マーケットとその改革に信頼のある人材。さらに、国際的な金融秩序にはっきりとした政策を打ち出し、存在感を出せる人が必要だと思っています。

週末の地元での懇談会でも、老後の資金を株に託していた皆さんから、「中川さん、経済は、これからどうなるんだろう？」と聞かれます。「解散総選挙で民主党が勝てば、株が上がるぞ。」と言われるような頑張りをする事だと思っています。